

石造物悉皆調査の調査方法について

— 宮道町来待地区に所在する神社での調査を例として —

西 尾 克 己
稻 田 信
多 久 田 友 秀
木 下 誠

1. はじめに

島根県八束郡宍道町来待地区で産出される来待石は中世以降、出雲地方を代表する石材として大量に使用され、現在でも多くの銘文をもつ製品が残っている。

しかし、来待石は比較的風化が早く、銘文等が判読できにくかったり、また、加工が容易であったためか製品の絶対数も多く、その重要性にもかかわらず、来待石製品についても出雲地方のいずれの地域においても基礎的な悉皆調査が行われている現状はない。

本稿では、宍道町来待地区内の神社に所在する全ての銘文付きの来待石製品について、概略調査（石造物のカード化）をおこなった方法の概略を述べることで、来待石製品の悉皆調査の方法と課題について提示することを目的としたものである。

2. 来待石石造物調査の意義

来待石は加工しやすく、また、苔むした灯籠や唐獅子が日本庭園や社寺境内の石造物としての風格を備えた伝統的工芸品として評価されている。しかし、来待石は、1960年代以降、コンクリートが構造物や建築の材料となってから、建築材や石垣の材料に使用されなくなり、墓石も御影石に取って替わられてきている。

この来待石は八束郡宍道町来待地区を中心に多く採掘がなされ、戦国時代から五輪塔などの墓石として使用され、江戸時代には松江において唐獅子や灯籠などが製品として加工されていた。そして、他藩への移出を制約されたため「御止石」と言われた時期もあり、出雲地方では重要視され、独自の石造文化を育ててきた。一方、来待石は凝灰岩質砂岩のため風化しやすい石材である。既に、江戸時代の石塔などは表面が剥落し、陰刻されている銘文が読みなくなったものも少なくなく、中には新しい花崗岩製のものと取り替えられ、片付けられ消え去ったものもある。

歴史と伝統を持つ来待石の石造物ではあったが、今日までほとんど問題として意識されることなく、研究の対象から外されてきた。わたしたちは、考古学と文献史学さらに民俗学などの分野から、来待ストーンを中心として、組織的に、かつ新しい視点で悉皆調査を進めて行く考えである。その調査・研究の対象としては、石工集団の技術の変化と伝承、各時代における製品の流通、信仰集団の形態、石材にみる習俗などである。さらに、石造物の実態を記録に残すことも目的としている。

3. 来待石の悉皆調査の方法

石造物の悉皆調査の場合、製品の所在とその概略を調べる所在確認調査と、そのうち、特に図化等を必要とする実測調査に分けることができる。

(1) 所在確認調査の方法

①調査カードの用意

所在確認調査には統一の調査カードを使用したい（様式参照P. 32～33）。ここでは、石造物の種類、時代、所在地、所有者、調査年月日、略図、銘文、寸法、石材、制作地、製作者、製作年代、分布・由来、位置図・配置図、備考等を記入し、写真を貼付することとなる。

②調査範囲・対象の設定

石造物については生活用具、建築用材、墓石、記念碑、装飾用具、宗教用具等、様々な利用がなされている。そのため、悉皆調査といっても、全てのものを無目的に調査していくことは不可能である。そこで、調査にあたっては、地域を限定した上で調査対象の設定を勧めたい。

今回の調査では、宍道町来待地区を調査範囲に、また、来待地区内の神社（18社）所在の銘文をもつ石製品を主に調査対象とした。これは、来待石の産地である来待地区では、典型的な来待石製品が残されていると考えたことと、神社に所在する石造物には比較的銘文が多く刻まれており、製品の変遷がつかみやすいことなどによる。

〔今回、明らかに銘文をもつものについては他の石材を利用した製品についても調査をおこなった。なお、五輪塔、宝筐印塔、石仏、生活用具、建築材など銘文をもちにくいものもあり、対象に応じた悉皆調査の考え方が必要である。来待石製品の集中する調査対象地については神社のほかにも寺院、墓地、庭園、旧家、その他公共施設などが想定される。〕

③調査対象地の所在確認

来待地区内の神社に所在する石造物の悉皆調査のためには、先ず地区内の全ての神社の所在を確認する必要がある。この作業については、宍道町史編纂室の史料と地元の歴史愛好家の協力を得た。

④調査対象地での製品確認（概観調査）



写真1 調査カードの記入

調査対象地では、先ずそこに所在する来待石製品を概観し、調査の量を確認する。今回の調査は主として銘文付きの来待石製品に限定しているので、その基準に沿っての概観調査である。

⑤石造物のカード化

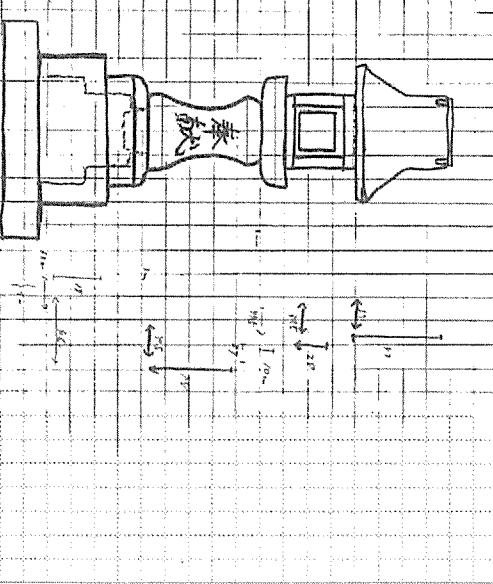
製品確認（概観調査）が終了すると、対象となる石造物について一つ一つ調査し、カード化していく。（写真1、図1）

⑥写真撮影

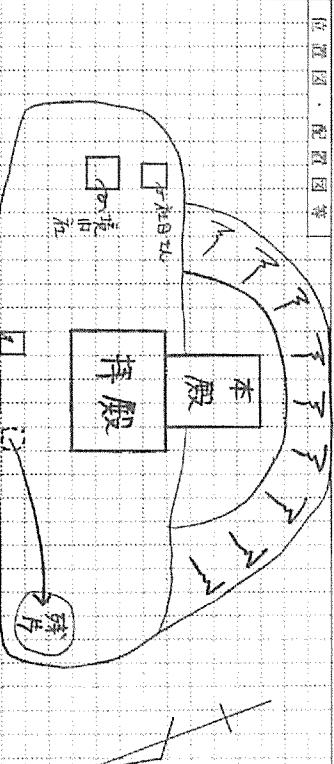
カード化と同時に、写真記録をおこなう。今回の調査では一点一点にカラーネガとリバーサルの二種類を用いるとともに、いずれ

図一 石造物調査表一式記入例(文書A4版)

石造物(来待石)調査カード

分類			
種類	五輪塔・宝篋印塔・鳥居・唐獅子・石仏・墓石・板碑	その他	(灯ろう)
時代	古墳・奈良・平安・鎌倉・室町・安土桃山・江戸・明治(昭和)	時代	明治(昭和)
所在地	八束市・  宮道町 村 大字上來待字 小林	地名	郡地
所有者(住所)	(氏名) 金神社 (こねじんじゃ)		
調査年月日	H 10年3月2日	調査者氏名	西尾、福田、多々田、木下
略図・絵文			
(説文)	(正面)(元政八年二月廿日奉誠)		
分布・由来	本殿は小林如泥作の伝承がある。		

製作地 製作年代 元政八年二月吉日
製作者
製作法・材料

位置図・配置図等		
備考	<p>本殿 棚札あり 「元政八年二月 金神社寄附神前 願主 小林氏子 神主 菅野OO</p>	
撮影年月日	H 10年3月2日	撮影者 木下

(表)

(裏)



写真2 スケール入りの調査写真

も写真記録カード（調査年月日、所在地、対象物名を記入）、スケール入りのもの（石造物に2mのスタッフを写し込んだ）、スケールの入らないものの3枚を写し込んだが、これについては経費や調査人員の関係もあるので、状況に応じた方法があろう。（写真2）

⑦石造物配置図の作成

調査対象地（今回は神社）の略図を描くとともに、そこでの石造物の配置を記入する。その折、対象地の概観や周囲の景観が分かる写真を可能な範囲で撮影しておくと便利である。

⑧調査後の整理

調査内容は、調査カードに直接書き込む方法や、野帳等に記入したものを転記する方法

がある。いずれにしても、調査項目の記入については調査をおこなった日のうちに調査カードに整理しておくこととをお勧めしたい。

（2）所在確認調査における望ましい調査員体制

いろいろな状況によって、調査員数には限りがあるが、試行錯誤を重ねながら、3人でチームを組むとかなり効率的に調査を進めることができた。役割分担として、調査カードの記入、写真撮影、写真記録カードの記入と写真用スケール持ちである。

なお、贅沢をいえば、来待石の石造物は年代的に近世・近代の製品が多いことから、古文書解読の経験者や地元の歴史状況に詳しい方の参加を求めるとき、単に石造物のみではなく、文献史料や地域の伝承を反映した、更に深まりのある調査を進めることができる。

（3）実測調査の方法

所在確認調査によって明らかになったもののうち、特に作図の必要なものについては、改めて詳細な実測図を作成していく必要がある。（図2）

（五輪塔、宝筐印塔の調査方法については本書 間野大丞「中世石造物の調査方法について」に詳述）

*石造物調査カードは来待ストーン、宍道町教育委員会に常備しているので、調査に利用される場合は進呈いたします。

4. 石造物調査の展望

今回の石造物調査は、来待石の採石場のある八束郡宍道町来待地区の神社を対象とした。それは石材が来待石にほぼ限定され、石造物の出現や製品の種類を把握することが容易な地域と考えたからである。調査の結果、最も古い製品は江戸時代後半の安永期（1772～1781年）で、多く作られたのは文政期（1818～1830年）であることも知られた。また、製品の種類としては、江戸時代には唐獅子と灯籠が大半を占めるが、明治時代に入るとそれに加えて境内社の社日さんの石柱などの石碑が加わる。今回の調査を元に、来待周辺部の玉造や宍道地区の悉皆調査も進め、各地域の実態

を比較検討する必要があると考える。

さらに、今回の調査で注目したのは、石造物を奉獻した年代や人名・氏子が知られる銘文の存在である。奉獻された時期は神社の遷宮時に集中している。来待神社のように近世において三つの村（上來海、東來海、西來海）が氏子であるような場合、他の神社より石造物も多く、紀年名をもつ灯籠や唐獅子の割合が大きい。この点に関しては、別稿（多久田友秀「石造物紀念銘と古文書史料との関連について」）で述べられているように、目下、町史編纂作業で古文書調査が行われております。

り、前述したように文献からも遷宮や石職人の史料が確認されている。

また、村々の鎮守と天満宮などでは石造物にも多少の違いがあった。天満宮には牛の石像が、松江藩と関係をもつ日吉神社には松江市春日神社などにもある猿の石像が奉獻されている。

最後に、明治時代以降の石造物の特徴を記しておきたい。明治末から昭和の初めには、日露戦争の先勝記念や御大典および皇紀二千六百年記念などで鳥居や灯籠が作られている。氏子の多い神社においては近代国家の動きと関わって石造物が奉納されていることが知られる。加えて、明治40年の神社整理で、来待神社に合祀されていた和奈佐神社など6社が、戦後に元の場所に遷座され、その後、唐獅子などの石造物が新たに奉獻されている。

この度は、石造物の形態や技法については言及しなかった。灯籠や唐獅子などは近世、近代、現代と比べると形態に違いは認められるが、図化などの詳細な観察が必要であり、今後の課題としたい。

なお、製品に加工した石工集団については、銘があるものが少なく、隣接地域の調査を待って考察したい。

（西尾 島根県教育庁文化財課、稻田・多久田・木下 宍道町教育委員会）

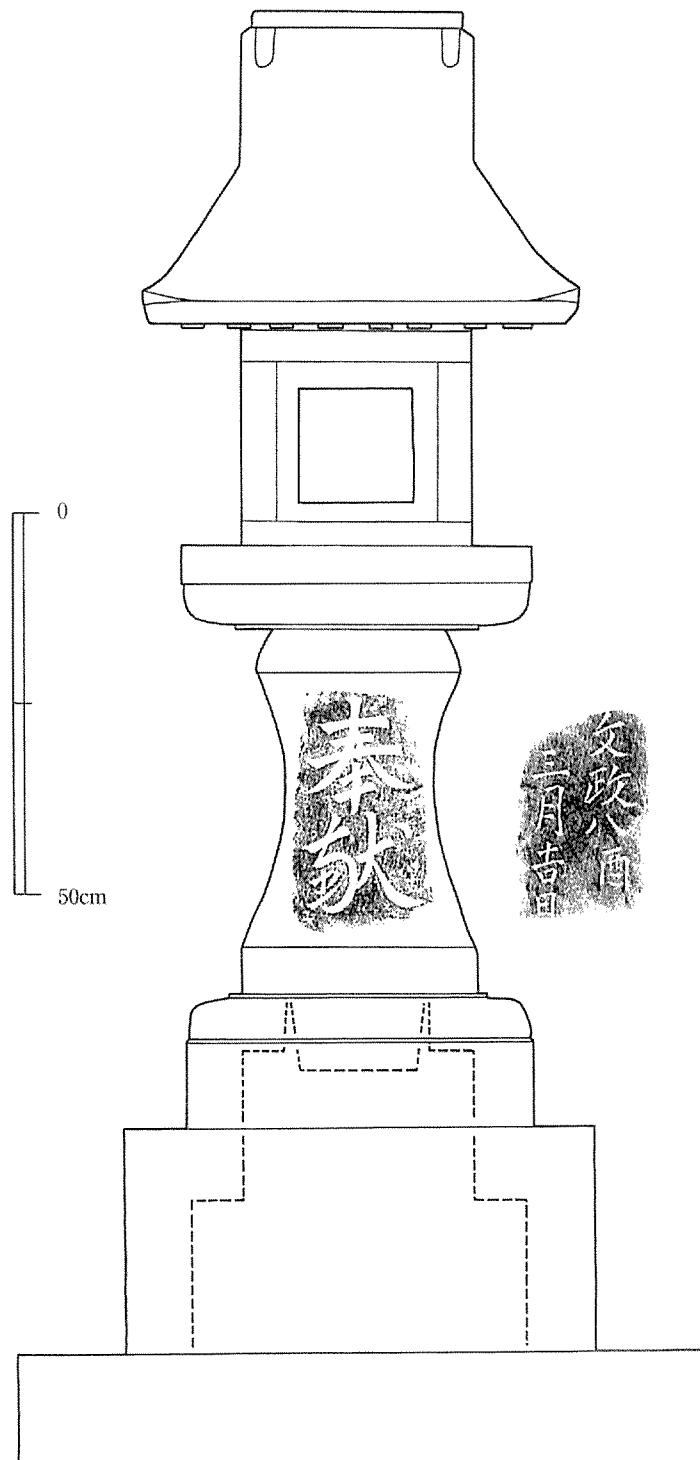


図2 剣神社（宍道町大字上來待字小林）灯籠実測図（1/10）

石造物（来待石）調査カード

分類							
種類	五輪塔・宝篋印塔・鳥居・唐獅子・灯籠・石仏・墓石・板碑・その他()						
時代	古墳・奈良・平安・鎌倉・室町(南北朝・戦国期)・安土桃山・江戸(前期・後期)・明治・大正・昭和・その他()						
所在地	市・郡	町・村	大字	字	番地		
所有者	(住所)(氏名)						
調査年月日	年	月	日	調査者氏名			
略図・銘文							(銘文)
寸法	高 cm	幅 cm	厚 cm	石材	来待石・()		

製作地	製作年代		
製作者			
製作法・材料			
分布・由来			
位置図・配置図等			
備考			
サービスサイズ写真貼付			
	撮影年月日	年 月 日	撮影者

宍道町来待石製品（来待地区内の神社）データリスト

No.	神社名	西暦	和暦	種類	銘文	所在地	石材
1	来待神社	1885	明治18年	灯籠	(左)奉燈 (右)明治十八年 八朔新造	大字上來待字來待大森	来待石
2	来待神社	1788	天明8年 申	5月吉日 灯籠(左)	(正面)申五月吉日 伊藤儀藏 五百川太助 伊藤龟松 伊藤与三次 坂本坂松 赤坂祐吉	大字上來待字來待大森	来待石
3	来待神社	1788	天明8年 申	5月吉日 灯籠(右)	(正面)天明八年 五百川捨八 坂本与兵衛 五百川惣四良	大字上來待字來待大森	来待石
4	来待神社	1821	文政4年 辛巳	9月19日 唐獅子(左)	(正面)文政四年巳 九月十九日 寺町 石工林藏作 (右)東来海村 氏子中 (裏)石寄進 石屋中	大字上來待字來待大森	来待石
5	来待神社	1821	文政4年 辛巳	9月19日 唐獅子(右)	(正面)文政四年巳 九月十九日 (左)西来海村 氏子中 (裏)石寄進 石屋中	大字上來待字來待大森	来待石

穴道町来待石製品（来待地区内の神社）データリスト

No.	神社名	西暦	明治18年	和暦	曆	種類	銘文	所蔵地	石材
1	来待神社	1885	明治18年			灯籠	(左)奉燈 (右)明治十八年 八朔新造	大字上来待字來待大森	来待石
2	来待神社	1788	天明8年	申	5月吉日	灯籠(左)	(正面)申五月吉日 五百川大助 伊藤龜松 伊藤与三次 坂本坂松 赤坂祐吉	大字上来待字來待大森	来待石
3	来待神社	1788	天明8年	申	5月吉日	灯籠(右)	(正面)天明八年 五百川捨八 坂本与兵衛 五百川惣四良	大字上来待字來待大森	来待石
4	来待神社	1821	文政4年	辛巳	9月19日	唐獅子(左)	(正面)文政四辛巳 九月十九日 寺町 石工林藏作	大字上来待字來待大森	来待石
5	来待神社	1821	文政4年	辛巳	9月19日	唐獅子(右)	(正面)文政四辛巳 九月十九日 石工文助 彌啓 (左)西来海村 氏子中 (裏)石寄進 石屋中	大字上来待字來待大森	来待石

No.	神社名	西暦	和暦	曆	種類	銘文	所持地	石材	
6	来侍神社	1822	文政5年	9月吉日	唐獅子(左)	(正面)文政五年 九月吉日	大字上來待字來侍大森	来侍石	
7	来侍神社	1822	文政5年	9月吉日	唐獅子(右)	(正面)文政五年 九月吉日	大字上來待字來侍大森	来侍石	
8	来侍神社	1788	天明8年	申	9月	灯籠(左)	(正面)奉獻 鏡分 (裏)天明八申九月	大字上來待字來侍大森	来侍石
9	来侍神社	1788	天明8年	申	5月吉日	灯籠(右)	(正面)奉寄進 (左)申五月吉日 (右)天明八歲	大字上來待字來侍大森	来侍石
10	来侍神社	1822	文政5年	壬午	9月吉良日	灯籠(左)	(サ才)(正面)奉獻 (裏)文政五千壬午 (台座)(正面)西來海村	大字上來待字來侍大森	来侍石
11	来侍神社	1822	文政5年	壬午	9月吉良日	灯籠(右)	(サ才)(正面)奉獻 (裏)文政五千壬午 (台座)(正面)西來海村	大字上來待字來侍大森	来侍石
12	来侍神社	1825	文政8年	酉	10月11日	灯籠(右)	(正面)奉獻 (右)文政八年 (裏)酉 十月十一日	大字上來待字來侍大森	来侍石
13	来侍神社	1825	文政8年	酉	10月11日	灯籠(左)	(正面)奉獻 (右)文政八年 (裏)酉 十月十一日	大字上來待字來侍大森	来侍石
14	来侍神社	1856	安政3年	辰	10月10日	唐獅子(階段下)(左)	(裏)竹田善治郎 同 貞治郎 同 大藏 狩野金次郎 百合沢喜次郎 和五郎 同 太平 (5人名前不明) 吉岡徳右工門 永原伴右工門 口山甚右工門 戸谷五郎兵衛	大字上來待字來侍大森	来侍石

No	神社名	西暦	和暦	辰	10月10日	唐獅子(階段下)(右)	銘文	所地	在地	石材	
15	来待神社	1856	安政3年	辰			(裏)安政三年 辰十月十日 高木□□ 同 惠市郎 同 与三右衛門 (5人名前不明) 同 丑市 同 土口五郎 同 松助 同 儀市 出川口七 同 勝五□ 口 与右衛門 大山五平 (1人名前不明)	大字上来待字來待大森	来待石		
16	来待神社	1788	天明8年	申	5月吉日	灯籠	(正面)奉寄口 (左)申五月吉日 (右)天明八□	大字上来待字來待大森	来待石		
17	佐久多神社	1854	安政元年	甲寅	1月□9日	唐獅子	主願 安政(元) 甲寅 遷宮一月□九日 永原□□ 氏子中	大字上来待字佐倉	来待石		
18	佐久多神社	1870	明治3年	午	神在月	唐獅子(右)	明治三年 牛 神在月	大字上来待字佐倉	来待石		
19	佐久多神社					唐獅子(左)	(正面)願主 永原市右衛門 善順 (左)松江 石橋町	大字上来待字佐倉	来待石		
20	佐久多神社	1800	寛政12年	申	7月吉日	灯籠	(正面)奉寄進 氏子中 (左)寛政十二 申 七月吉日	大字上来待字佐倉	来待石		
21	佐久多神社	1878	明治11年	戊寅	8月吉日	灯籠	(正面)奉獻 (裏)明治十一 戊寅 八月吉日	大字上来待字佐倉	花崗岩		
22	来待本宮	1869	明治2年	巳	4月	灯籠	明治二 巳 四月 村中	大字上来待字田根	花崗岩		
23	来待本宮	1845	弘化2年		9月	手水鉢	弘化二 九月	大字上来待字田根	花崗岩		

No.	神社名	西暦	明治11年	和暦	10月20日	灯籠	種類	銘文	所蔵地	石材
24	和名佐神社	1878	明治11年	寅			(正面) 慶賀 (右) 明治十一年 寅 十月廿日	大字上來侍字和名佐		
25	和名佐神社					唐獅子(左)	(左) 氏子中 獻 主願 松浦 弥口 内田 十太郎 内田 口市 内田 口口 久助 福山 兵工	大字上來侍字和名佐	来侍石	
26	和名佐神社					唐獅子(右)	奉 主願 門脇 茂口 今簡 口口 福山 崇口 森田 口口 門脇 平口 石工 口助	大字上來侍字和名佐	来侍石	
27	和名佐神社	1841	天保12年	辛丑	8月吉日	社日塔	(正面) 大己貴神 天照大御神 少彥名神 (裏) 貪穢命 天保十二 辛丑 八月吉日	大字上來侍字和名佐		
28	和名佐神社	1878	明治11年	寅	6月10日	灯籠	(正面) 金比羅宮 (左) 明治十一年 寅 六月十日	大字上來侍字和名佐		
29	剣神社	1825	文政8年	酉	2月吉日	灯籠	(左) 文政八酉二月吉日 (裏) 奉獻	大字上來侍字小林		
30	梅の木教会	1921	大正10年		3月	牛像(正面左)	(正面) 奉獻 (裏) 大正十年三月 松江市 作人 福田勝三郎	大字上來侍字菅原		
31	梅の木教会	1922	大正11年		4月	牛像(正面右)	大正十一年四月	大字上來侍字菅原		
32	梅の木教会	1905	明治38年		3月	灯籠(正面左)	(竿部分正面) 奉獻 (裏面) 出征軍人安全 明治三十八年 三月建之 (台座)(人名省略)	大字上來侍字菅原		

No.	神社名	西暦	和暦	層	種類	銘文	所蔵地	石材
33	梅の木教会	1905	明治38年		灯籠(正面右)	(竿部分正面)奉獻 出征軍人安全 明治三十八年 (台座正面)内々峠區 中 小松區 (裏面)石工 尖道町	大字上來待字菅原	
34	梅の木教会				灯籠(正面左)	(正面)戰勝記念 (右)奉納 石材 弘長寺区	大字上來待字菅原	
35	梅の木教会	1919	天正8年	10月	灯籠(正面右)	(正面)天下太平 (左)願主 大阪市 川中 坂本 神門 吉田 樋口	大字上來待字菅原	
36	梅の木教会	1866	慶応2年	2月	灯籠	(裏)大正八年十月 (正面)奉獻 (左)菅口 (右)慶応二年二月	大字上來待字菅原	来待石
37	梅の木教会	1826	文政9年	丙戌?	手水鉢	村中 文政九 丙戌 (正面左柱)明治二十四年 (正面右柱)奉寄進	大字上來待字菅原	
38	菅原天満宮	1891	明治24年		鳥居	(正面)奉起人 来海谷 藤助 (正面)奉獻 犬野久之助 (左) (省略) (右) (省略)	大字上來待字菅原	
39	菅原天満宮	1937	昭和12年	4月吉日	牛像(正面左)	(裏)側井 戸谷政吉 石出人 勝部繁吉 永原幸之助 昭和十二年四月吉日 製作所 来待村 遠藤石材店 製作人 松江市 安田國太郎	大字上來待字菅原	来待石
40	菅原天満宮	1937	昭和12年	4月	牛像(正面右)	(正面)世話人 犬野久五郎 奉獻 犬起人 来海谷 勝助 (左) (省略) (右) (省略) (裏)昭和十二年四月	大字上來待字菅原	来待石

No.	神社名	西暦	和暦	曆	種類	銘文	所在地	石材
41	菅原天満宮	1849	嘉永2年	己酉	4月吉日	灯籠	(正面)奉獻 (右)嘉永二己酉年四月吉日	大字上来待字菅原 花崗岩
42	菅原天満宮	1858	安政5年	戊午	12月吉日	灯籠	(正面)献燈 米子藩中 (裏)安政五年戊 午十二月吉日	大字上来待字菅原 来待石
43	菅原天満宮	1849	嘉永2年	戊		唐獅子(正面左)	奉 嘉永二戌 □□月吉日	大字上来待字菅原 来待石
44	菅原天満宮	1849	嘉永2年			唐獅子(正面右)	献 嘉永二 捐屋村 □東市□	大字上来待字菅原 来待石
45	菅原天満宮	1781	天明元年	辛丑		灯籠	(正面)奉獻 (裏面)天明元辛丑孟秋	大字上来待字菅原 来待石
46	伊勢宮神社	1847	弘化4年	丁未	6月吉日	唐獅子(正面左)	(右)献 六月吉日	大字上来待字菅原
47	伊勢宮神社	1826	文政9年	戊	10月日	唐獅子(正面右)	(左)奉 弘化四年未	大字上来待字菅原
48	伊勢宮神社					手水鉢	奉 龍口 市良兵衛 龟三良 願主 戌 藏 豊五郎	大字上来待字菅原 来待石
49	鏡神社	1820	文政3年		10月	灯籠	文政三十 月	大字東來待字鏡 来待石
50	鏡神社	1869	明治2年	己巳	神在月	唐獅子(南)	明治二己巳 神有月	大字東來待字鏡 来待石
51	鏡神社					唐獅子(北)	石工 和助	大字東來待字鏡 来待石
52	鏡神社	1902	明治35年		4月	鳥居	明治三拾五年四月 建設	大字東來待字鏡 来待石
53	鏡神社	1820	文政3年			唐獅子	文政三年	大字東來待字鏡
54	向津神社	1942	昭和17年			鳥居	(右柱裏)昭和十七年建立	大字東來待字弘長寺 来待石
55	金簪神社	1884	明治17年	申	9月吉日	手水鉢	(左)奉獻 土江奎五郎 (正面)明治十七申九月吉日	大字東來待字弘長寺 来待石
56	金簪神社	1822	文政5年		9月9日	唐獅子(正面左)	(正面)献 (裏)文政五年 士江善六 高木儀三良 武田助十 士江木右工門 午九月九日	大字東來待字弘長寺 来待石

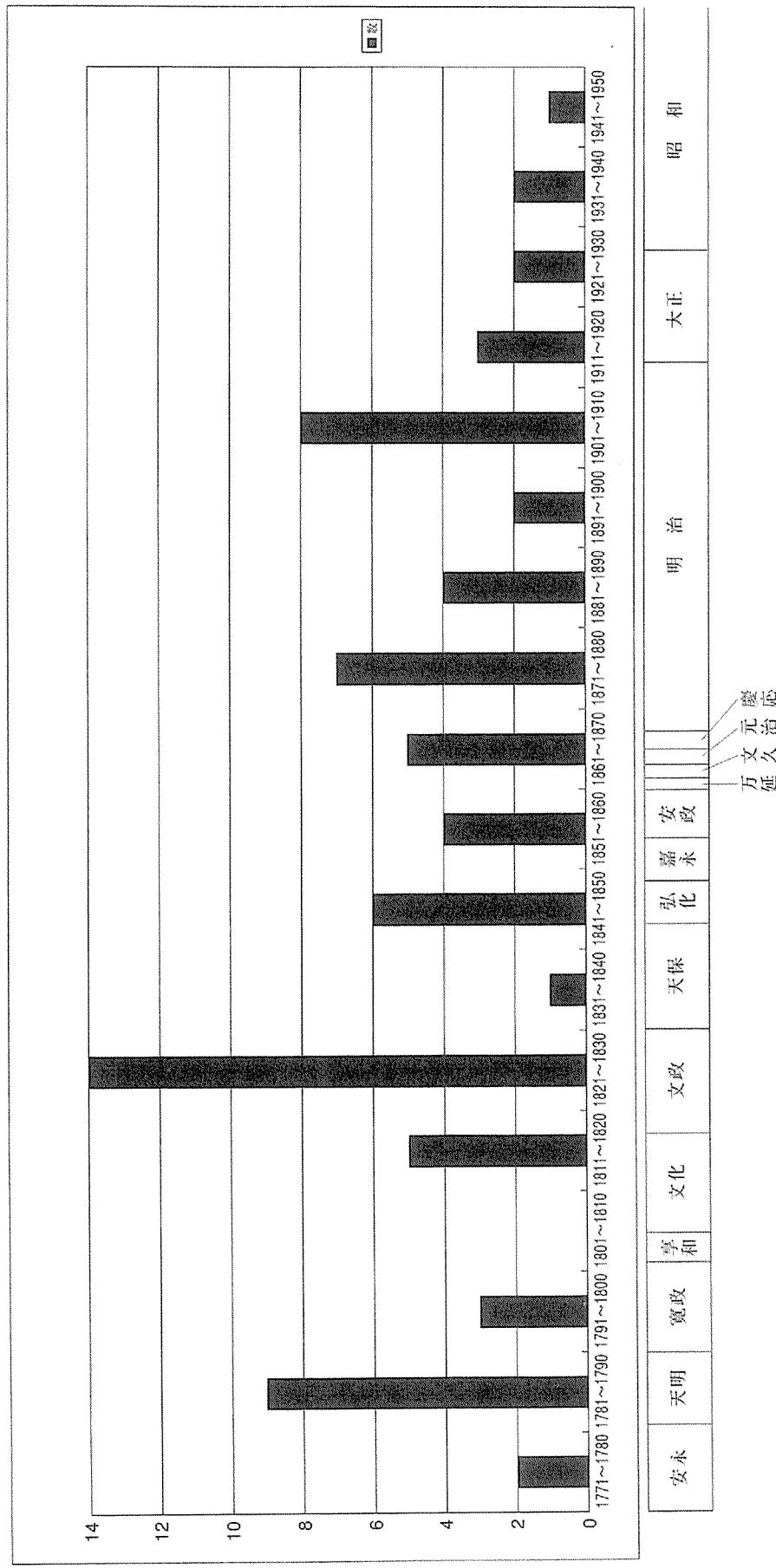
No.	神社名	西暦	和暦	銘文	所在地	石材
57	金箸神社	1822	文政5年	唐獅子(正面右) (裏)文政五年 土江口口 同人母 土江文三良 勝田悌助	大字東来待字弘長寺	来待石
58	金箸神社	1879	明治12年	卯 9月吉日 灯籠(正面左) (裏)明治十二卯九月吉日	大字東来待字弘長寺	来待石
59	金箸神社	1879	明治12年	卯 9月吉日 灯籠(正面右) (裏)明治十二卯九月吉日	大字東来待字弘長寺	来待石
60	金箸神社	1882	明治15年	9月吉日 手水鉢 願主 氏子中 明治十五九年吉日	大字東来待字弘長寺	来待石
61	日吉神社	1915	大正4年	11月10日 鳥居 (右柱正面)大典 (左柱正面)記念 (裏)大正四年十一月十日	大字東来待字浜東	来待石
62	日吉神社	1816	文化13年	子 4月 唐獅子 (正面)願主 栗原儀助 慶邦 (西)文化十三 子四月 石工 矢四郎	大字東来待字浜東	来待石
63	日吉神社	1916	大正5年	11月吉日 石碑 (裏面)立太子記念 燈籠一対 石工 和田見 大正五年十一月吉日建立	大字東来待字浜東	来待石
64	日吉神社	1907	明治40年	9月7日 石碑 (正面)明治四十年九月七日指定 醸供進	大字東来待字浜東	
65	日吉神社	1875	明治8年	乙亥 4月吉日 灯籠 (南)明治八乙亥四月吉日	大字東来待字浜東	来待石
66	屋風呂神社			灯籠 奉獻 施主 坂本口一 口木右一郎 伊藤利助 土江伝太郎	大字東来待字久戸	来待石
67	屋風呂神社	1786	天明6年	午 9月9日 灯籠(正面左) (左)天明六年九月九日 (正面)願主 小谷跡口口門 仲田口口口 仲田字口	大字東来待字久戸	来待石

No.	神社名	西暦	和暦	曆	燈籠(正面右)	種類	文	所 在 地	石 村
68	屋風呂神社	1786	天明6年	午	9月9日		(正面)奉寄進 (右)天明六 午九月九日 願主	大字東来待字久戸	来待石
69	屋風呂神社					灯籠(南)	献(以下人名あり)	大字東来待字久戸	来待石
70	屋風呂神社	1878	明治11年	寅		灯籠(北)	奉 明治十一 戌(以下人名あり)	大字東来待字久戸	来待石
71	屋風呂神社	1792	寛政4年		8月吉日	手水鉢	(正面)願主 (裏)寛政四口	大字東来待字久戸	
72	屋風呂神社	1790	寛政4年	子	12月吉日	灯籠(南)	(台座)坂本 (正面)奉寄進 (左)願主 坂本口□ 仲田口□ 小谷静五郎 (右)寛政二年 子十二月吉日	大字東来待字久戸	来待石
73	屋風呂神社	1792	寛政4年	子		灯籠(北)	(正面)奉寄進 (右)寛政四年 子十二月口日 (左)願主	大字東来待字久戸	来待石
74	宇由比神社					鳥居	(南柱)昭和五十七年七月吉日 (北柱)氏子中	大字西来待字小松	来待石
75	宇由比神社	1772	明和9年	辰	10月日	鳥居	(南柱裏)明和九年十二 (北柱裏)辰十月日氏子	大字西来待字小松	来待石
76	宇由比神社	1890	明治23年			灯籠	(正面)明治廿三年 氏口中	大字西来待字小松	来待石
77	宇由比神社					灯籠	(正面)奉獻 (左)百貳拾卷年前 安永九年十二月平正月建 茲年明治三十三年子四月建 (右)伊藤口一郎	大字西来待字小松	
78	宇由比神社	1903	明治36年		9月	灯籠	(正面)奉獻 (左)明治三十六年九月 木町乃うち子 (右)大顯成就 記念口	大字西来待字小松	来待石

No.	神社名	西暦	文久2年	和暦	9月13日	燈籠	類	銘	文	所	在地	石材
79	宇由比神社	1862	文久2年	戌				(正面)奉獻 (左)来侍谷 口七 (右)文久二戌九月十三日		大字西来待字小松		
80	宇由比神社	1909	明治42年		2月	灯籠		(正面)奉獻 (左)明治四十二年二月 (右)伊藤為市		大字西来待字小松	来侍石	
81	宇由比神社	1780	安永9年	庚子	正月日	灯籠		(正面)奉寄進 (右)安永九歳 更子正月日 (左)伊藤氏		大字西来待字小松		
82	中垣八幡宮	1836	天保7年	申		灯籠		(正面)奉 (裏)天保七申口		大字西来待字中垣	来侍石	
83	天宮神社	1905	明治38年		4月	灯籠(左)		(正面)奉獻 (左)上横見 石工中 (右)明治三十八年四月		大字西来待字横見	来侍石	
84	天宮神社	1905	明治38年		4月	灯籠(右)		(正面)奉獻 (左)明治三十八年四月 (右)人名多数あり 世話人 曾田久一郎		大字西来待字横見	来侍石	
85	天宮神社	1819	文政2年	己卯	2月吉良日	灯籠		(正面)奉獻 (左)松江市中町 新屋口助		大字西来待字横見	来侍石	
86	天宮神社							(右)文政二己卯 二月吉良日				
87	天宮神社	1826	文政9年	丙戌		唐獅子		(右)願主 出川恵左工門 木次町 加茂屋元市		大字西来待字横見	来侍石	
						手水鉢		文政九丙戌		大字西来待字横見		

穴道町来待石製品（来待地区内の神社）造立年代分布グラフ

造立年代分布		1771～1780	1781～1790	1791～1800	1801～1810	1811～1820	1821～1830	1831～1840	1841～1850	1851～1860	1861～1870	1871～1880	1881～1890	1891～1900	1901～1910	1911～1920	1921～1930	1931～1940	1941～1950	合計
級	数	2	9	3	4	14	1	4	6	4	5	7	4	2	8	3	2	2	1	75



※大正時代以降の石製品については選択的に調査した。

安永 天明 寛政 寧和 文化 天保 弘化 安政 嘉永 明治 1831～1840 1841～1850 1851～1860 1861～1870 1871～1880 1881～1890 1891～1900 1901～1910 1911～1920 1921～1930 1931～1940 1941～1950
万文 元治 久延 麟